

 **ゴール:** 夢と理由と「そのためにしていること」を1分で語れる

場面 進路集会のオープニングはあなたのスピーチ。夢は大きくても小さくてもいい——「なぜ」と「今」があれば立派な夢だ。

構成: ①I want to be ~./ I want to ~. ②理由 because ~(体験が入るとA評価) ③今していること I ~ to(目的のto) ④締めの一言

例: I want to be a nurse. When I was sick, a nurse made me smile. Now I study science hard to make my dream come true.

準備 テストまでにすること(授業2回+家練習)

原こう(5~7文)→先生チェック→暗唱練習(キーワード3語だけのメモカードは持ってよい)。

本番 時間: 1人1分 / 評価: 4観点×3段階(12点)

達成	相手に伝わったか・目的をはたせたか(いちばん大事!)
正確さ	今回の言語材料(下の「使う形」)が正しく使えたか
流暢さ	止まらずに続けられたか(完ぺきでなくてOK、リカバリーも実力)
態度・やり取り	聞き手を見て・声がとどいたか・あいさつと締めがあったか

✓ 聞き返し(Pardon? / One more time, please.)は減点ではなく加点。本物の会話の技だから、遠りよなく使おう。

ねらい このテストは何を・なぜ測るのか

測る力	自分の内面(願望・理由・行動)を構成立てて語る力(自己開示型の発表)
なぜ必要か	不定詞(want to / to+目的)は夢を語る文法。キャリア教育と接続できる唯一のパフォーマンステストで、「英語で本当のことを言う」経験が言語learningを自分ごとに変える。夢が未定の生徒への配慮設計まで含めて、全員が立てる舞台にする。

評価 ルーブリック(B列＝評価規準「おおむね満足の姿」。採点前に一読してから始める)

達成	A(3点) 夢・理由・行動がそろい、自分の体験で聞き手を引きこんだ	B(2点)＝評価規準 夢と理由(または行動)が伝わった	C(1点) 夢の一文のみ
正確さ	A(3点) want to / to+原形が正確	B(2点)＝評価規準 誤り(to went等)はあるが内容は通じる	C(1点) 不定詞が使えていない
流暢さ	A(3点) メモをほぼ見ず、自分の言葉として	B(2点)＝評価規準 メモを頼りに完走	C(1点) 棒読み・中断
態度	A(3点) 声・表情・間に気持ちが出る	B(2点)＝評価規準 顔を上げて届く声	C(1点) 聞こえない

✓ C→Bの手立て: 条件を1つ減らして再挑戦の機会を(例: メモを見てよい・時間を短く)。再テストはB上限にせず、できた姿をそのまま評価する

運用 当日の流れ(2コマ)

1	ルーブリック(このページ)のB列を一読してから開始——「おおむね満足の姿」を採点の物差しとして頭に置く
2	課題カード(1ページ目)の場面と評価観点を全体で確認(2分)。聞き返しは加点、と必ず伝える
3	順番票にしたがって実施(1人1分)。採点はその場で記録シートに○をつけるだけ
4	待ち時間の生徒には観察メモ(よかった表現を1つ書く)または自習課題を指定
5	全員終了後、よかった例を2～3、名前を挙げてほめて締める(次回への空気づくり)

☆運用のコツ「夢が決まっていない生徒」には I want to find my dream. から始めるスピーチを提案——探している宣言も立派な夢です。この配慮を最初に全体へ伝えると心理的安全性が段違い。

記録

その場で○をつけるだけ(A=3 B=2 C=1)

名前	達成	正確さ	流暢さ	態度	計	メモ(次への一言)
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	

✓ 印刷して名簿順に並べておくと、テスト中の記入が3秒で済みます。「メモ」は返却時のフィードバックの種——1語でOK。